



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立王塚台中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年1月31日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・7人制のラグビーフットボールの日本代表選手であったと自己紹介をした後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「昨日の自分を超越る」「チャレンジ精神」、フレンドシップ：「友情」「仲間」「皆で協力する」、リスペクト：「敬意/尊重」「感謝の気持ちを持つ」と説明。タグラグビーの体験を通して、3つの価値について学んでほしいと授業の目的を確認し、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動として、「コーディネーショントレーニング」、ラグビーボールを使用した「ボール送りリレー」「パス練習」「タグ取り練習」を実施。
 ・主運動として、「タグラグビー」を実施(1試合2分間×4試合)。ラグビーのルール同様、ボールを前にパスしたり、落としてはならず、ボールを持ってゴールラインを越えたらトライ(得点)。相手のタグを取ることでタックルとすること、タグを取る際は大きな声で「タグ」と言うルールのもと実施。



・運動の時間を振り返り、タグラグビーを初めて行う人が多かったと思うが、前向きにチャレンジする姿勢が素晴らしく、それぞれがルールを守り、ゲーム自体の結果としても接戦で良い勝負だった。座学の時間では、運動の時間に皆が感じたオリンピックバリューの3つの価値について振り返りながら、さらに深掘りしていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年1月31日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



- ・ラグビーフットボール競技や自身の経験を通して、オリンピックバリューの3つの価値について深く考える時間にしたいと授業の目的を確認。
- ・激しい練習や、怪我の治療・リハビリを乗り越え、金メダル獲得を目指して出場したオリンピックで結果が10位となり、悔しい思いを消化できずにいた時、娘がくれた賞状に記された「オリンピックまでよく頑張りました」というメッセージに、メダルを獲得することが全てではなく、夢を諦めず、努力してきた道のりが、かけがえのない大切な時間であったと気付いた。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：これまでにオリンピックバリューを感じた出来事はどんなことですか。また、これからオリンピックバリューをどのように活かしたいですか。

発表：エクセレンス：「難しいことも諦めずに取り組む」「授業で理解できなかったところや苦手な分野を勉強する」等

フレンドシップ：「皆で協力して作品を作り上げる」「部活動で仲間と協力し練習に励んだ」「自分の失敗を仲間が救ってくれた」等

リスペクト：「相手を思いやる」「皆の行動を見て、良いところを見つけリスペクトする」等



- ・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューの3つの価値は決して、オリンピックやトップアスリートだけのものではなく、皆の身近にあるということを知ってもらえたと思う。オリンピックは出場することも大切だが、オリンピックバリューを意識して生活することで、皆もオリンピックになれると思う。これからも困難なことを経験すると思うが、オリンピックバリューを大切に、夢に向かって頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年1月31日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ラグビーフットボール競技の選手であったと自己紹介した後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「全力でベストを尽くす」「失敗を恐れずチャレンジする」、フレンドシップ：「友情」「仲間」「皆で協力する」、リスペクト：「敬意/尊重」「感謝の気持ちを持つ」と説明し、運動の時間はこの3つの価値を意識しながら、ラグビーを楽しんでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動として、「コーディネーショントレーニング」、ラグビーボールを使用した「ボール送りリレー」「パス練習」「タグ取り練習」を実施。
 ・主運動として、「タグラグビー」を実施(1試合2分間×3試合)。ラグビーのルール同様、ボールを前にパスしたり、落としてはならず、ボールを持ってゴールラインを越えたらトライ(得点)、相手のタグを取ることでタックルとする。タグを取る際は大きな声で「タグ」と言うルールのもと実施。



・運動の時間を振り返り、タグラグビーを初めて行う人が多く、難しい部分もあったと思うが、積極的にチャレンジし、前に行こうという気持ちや、チームメイトを助けてあげようという気持ちで取り組むことができたのであれば、オリンピックバリューの3つの価値を感じられたのではないかなと思う。座学の時間では、運動の時間に皆が感じたオリンピックバリューについて振り返りながら、さらに深掘りしていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年1月31日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・ラグビーフットボール競技や、自身の経験を通して、オリンピックバリューの3つの価値についてさらに深く考える時間にしたいと授業の目的を確認。
- ・オリンピック出場が決定したアジア最終予選決勝の対戦相手であったカザフスタンの選手が、負けて悔しい思いもあった中で「おめでとう」と祝福の言葉を掛けてくれた時、相手を尊重できるカザフスタンの選手こそ、真のオリンピックであると感じた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：これまでにオリンピックバリューを感じた出来事はどんなことですか。また、これからオリンピックバリューをどのように活かしたいですか。

発表：エクセレンス：「友人が諦めずに前向き姿勢が凄いと感じた」等

フレンドシップ：「勉強で分からないところをお互いに教え合う」「何事もチームで協力し最後まで諦めない」等

リスペクト：「運動で相手が転んだ時に手を差し伸べる」等



・運動と座学の時間を振り返り、オリンピックバリューの3つの価値は決してスポーツ、アスリートだけの価値ではなく、皆の日常生活の中に、身近に存在しているということを知ってもらえたと思う。普段から意識することで、誰もが本当のオリンピックになることができるのでオリンピックバリューを大切に、それぞれの夢に向かって頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：馬淵 智子 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年1月31日(火)

■ **ク ラ ス**：2年3組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・ソフトボール競技で北京2008大会に出場したと自己紹介。運動の時間は「全力で取り組む」、「協力する」、「ルールを守る」の3つのことを約束事とし、皆がそれぞれ持っている力を精一杯発揮し、楽しんで取り組んほしいと授業の目的を伝える。その後、実際にオリンピックで使用したボールで代表生徒数名とキャッチボールを実施。その後、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操は、ストレッチをした後、「体を使ったじゃんけん」、「ボールを使った運動」を実施。
 ・主運動は、「ボールパスリレー」を実施(全4回)。チーム内で2人組になり、バレーボールをパスしながら折り返し地点のコーンを回って戻り、ボールを次の2人組にパスし、ゴールした順位を競う。1、2回目は走りながら投げてパスし、3、4回目サイドステップで進みながらボールは転がしてパスをするルールで実施。



・運動の時間を振り返り、ボールパスリレーではボールが遠くへ飛んで行ってしまったり、上手いできない部分もあったと思うが、それは皆が少しでもタイムを縮めようと、チームのために全力で取り組んだ証拠であり、その姿勢は素晴らしかった。授業の最初に約束した「全力で取り組む」、「協力する」、「ルールを守る」の3つをしっかりと守っていた。座学の時間は自身の経験も交え、オリンピックバリューの3つの価値について、さらに深く考える時間にしたと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：馬淵 智子 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年1月31日(火)

■ **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・北京2008大会で金メダルを獲得するまでの経験や、オリンピックを通して学んだことを伝え、オリンピックバリューが皆の生活にどのようにつながっているかを考える時間にしたいと、授業の目的を確認。アテネ2004大会の代表選考で落選した時、引退を考えたが、周囲の方々からの応援を無駄にできないと気持ちを切り替えた。その後、更に厳しいトレーニングに励み、北京2008大会出場という夢を叶えることができた。苦しいことがあっても、夢を諦めず、自分を追い込み、努力を続けられるかが重要だ。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：普段の生活の中で、オリンピックバリューに当てはまることを考えよう。

発表：エクセレンス：「辛いと思った時にもう少し頑張る」「一生懸命テスト勉強に取り組む」「予習、復習に励む」等
 フレンドシップ：「行事等で皆で協力する」「部活動等で失敗した人を責めない」「優しい声掛けをする」等
 リスペクト：「挨拶を徹底する」「時間を守る」「家族や先生を尊敬する」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは皆の日常生活に欠かせない必要な要素である。何かに挑戦する時、悔しいことや、辛い思いを感じたりする場合もあるが、最初から何もできないと決めつけず、気になることにはどんどんチャレンジし、自分の可能性を広げてほしい。勉強や部活、日常生活にオリンピックバリューを活かし、楽しく、1日1日を大切に過ごしてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 集合写真

・2年3組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



■ 修了証贈呈

